

身体装飾について

第1報 ファッション意識との関連

Research on Personal Adornment Part 1 Fashion Consciousness

(2006年3月31日受理)

宇野 保子 近藤 信子 中川 早苗
Yasuko Uno Nobuko Kondo Sanae Nakagawa

Key words : 身体装飾, ファッション意識, 流行採用者カテゴリー

要 約

身体装飾行為とファッション意識との関連性を検討するために、質問紙調査を実施した。調査は、平成15年12月に広島在住の大学生社会人200人を対象に、ヘアカラー、ピアスの装着、眉剃りの3つの身体装飾行為について行った。その結果、ヘアカラーの採用者は、現在と過去の経験者を合わせて約77%で、髪を染める理由は、「気分、雰囲気を変えたい」「イメージチェンジをしたい」という変身願望につながる理由であることがわかった。ピアスの装着経験者は、38.5%にのぼり、採用の理由は、「服装、髪型に合わせて、おしゃれを楽しみたい」であり、ファッションに対する積極的な態度を見て取ることができた。一方、眉剃りについては約85%が経験しておりその理由は、他の身体装飾行為とは異なり「イメージチェンジ」や「気分を変える」ためではなく「身だしなみとして」であった。このように、今回調査したヘアカラー、ピアスの装着、眉剃りの3つの身体装飾行為は「変身願望」「おしゃれを楽しむ」「身だしなみ」とそれぞれ異なる意味合いを持ってファッションの中で採用されていることがわかった。

はじめに

着替えることのできる皮膚を求めて、人は被服を考案したとの説もあるが、最近のファッションは、身体そのものを加工したり、着色したりするものがみられる。これが、多様化したファッションにさらに変化と個性を付加する身体装飾行為である。身体装飾については、1920年にフリーゲルが、装飾の形態を身体的なものや外部的なもの、一時的であるか、永続的であるかという違いによって分類し、区別している。

身体装飾行為についての研究としては、1996年に三宅が、茶髪を、ルースソックス、ポケベルとともに若者の流行現象の一つとして、ロジャースの流行採用者カテゴリーの概念に沿った研究を行い、性格特性、被服への関心、情報収集、流行の流布度の認知との関連を示唆した。

1999年には、中村が日本、東アジアで広まっている茶髪、ピアスの現象を流行や同調として説明するだけでなく、文化心理学的に解明しようと試み、茶髪の背景には美意識の白人志向性、ピアスには、儀式志向なども関連することを指摘した。

著者らは、最近特に若者を中心に採用されている髪染め（ヘアカラー）やピアス、眉剃りを含む眉を整える行為などの身体装飾行為に注目し、これらの先行研究を踏まえたうえで、2003年、学生を対象とした聞き取りによる予備調査を行った。その結果、中村や三宅が調査対象とした時代から、採用者カテゴリーの段階は、早期採用者の時期を過ぎ、追従者による微増の時期から微減の時期を迎えていると推定。また、これらの行為は減衰型の流行に終わることなく、一般化型の流行として、一定の普及が維持されていくものと推論した。すなわち、現在

にあつては、化粧と同様に一般化した装飾行為として、ファッション意識の中で捉えられることが適切であると判断し、本報の指針とした。

化粧については、身体装飾行為として古くから一般的に行われ、その心理的な効果についてはさまざまな角度から研究されている。

笹山らは、化粧行動を規定する諸要因の関連性を検討し、化粧行動は、「化粧への関心」と「化粧の習慣」の2つの態度で説明され、それぞれ異なった化粧に対する意識や性格特性と関連することを明らかにした。すなわち、個人の性格特性によって化粧に対する意識が変化し、その意識が化粧行動を規定するという。特に関連が深い性格特性として、顕示欲求をあげている。

本報では、第1報として具体的な身体装飾行為としてのヘアカラー、ピアスの装着、眉剃りをとり上げ、これらの行為の採用実態、採用理由、採用後の気分の変化などを明らかにし、ファッション意識との関連を検討する。続く第2報では、性格特性との関連を検討する。

方 法

調査の概要 平成15年12月、広島在住の大学生、社会人200人を対象に、配票留置法による質問紙調査を行った。質問紙の内容は、それぞれの身体装飾行為の実態を問う項目、ファッション意識との関連を調査する項目等であり、その内訳は、ヘアカラー〈9項目〉、ピアスの装着〈7項目〉、眉剃り〈6項目〉、その他〈4項目〉計26項目である。

分析の方法 すべての項目についてまず、単純集計、クロス集計を行った。4段階評定の質問項目については、「はい」には4、「やや」には3、「あまり」には2、「いいえ」には1の評価得点を与え、質問項目ごとの評定平均値をもとめ、男性、女性、男女総合の3群間で一元配置の分散分析を行った。なお、統計分析には、SPSS10.0J for Windowsを使用した。

結果及び考察

紙面調査の結果 有効回収率は96%（有効回収数192票）であり、基本属性は、男性74人（38.5%）女性118人

（61.5%）、10代42人、20代113人、30代以上37人であった。

紙面の関係上、特にファッション意識との関連が顕著に見られるそれぞれの身体装飾行為の採用理由、採用後の気分を中心に報告する。また男女の意識の違いが見られた項目についても報告する。

1. ヘアカラーについて

ヘアカラー（髪染め）の採用実態を知るため、現在髪を染めているか、過去に染めたことがあるかどうかをたずねた。その結果は図1のとおりである。女性は、現在染めている者が多く、男性は、過去に染めていた者が多いが、現在過去あわせてヘアカラーの採用経験者の割合は、女性は79.7%、男性は73%、男女総合では、77.1%の多数にのぼる。

一方ヘアカラー未経験者の23%について、髪を染めている人を見ての感想を尋ねたところ、「個性的でよいと思う」38.0%、「かっこいいオシャレ」23.0%と、過半数がヘアカラーの採用に対して肯定的である。

ヘアカラーの採用経験者が8割近くにのぼり、残りの未経験者も過半数がこの行為に対して肯定的であるとすれば、身体装飾としてのヘアカラー行為は、一般化型の普及形態をとる流行現象と見ることはできるのではないだろうか。

髪を染めた理由については、「黒髪は重たい感じがするから」や「ファッションとあわせたいから」など、あらかじめ予備調査の段階で出てきた上位の理由6項目に対する評定によって検討する。各理由項目ごとに「はい」「やや」「あまり」「いいえ」など、当てはまる度合いを評定した評定者の分布状態をみると、「気分や雰囲気を変えたい」の項目に女性の61.7%、男性の55.6%が、「はい」とし、「イメージチェンジをしたいから」も女性の50%、男性の51.9%が「はい」と評定している（図2）。これが、ヘアカラー行為の特徴的な採用理由といえる。図3は、各理由項目に対する男性、女性、全体別の評定平均値を布置したものである。ここからも、髪を染める理由が、「気分や雰囲気を変えたい」「イメージチェンジをしたい」などの変身願望とみることができる。また、男女の差異が認められた理由項目は「ファッションと合わせたい」（ $p < 0.05$ ）「黒髪は重たい感じがする」（ $p < 0.01$ ）で、いずれも女性が有意に高かった。

ヘアカラーを採用した時の感情変化を知るために初め

て髪を染めたときの感想についてたずねた。予備調査によりあらかじめ選定された「うきうきした気分になった」「気分が明るくなった」「新しい自分になった気がした」「かっこよくおしゃれになった気がした」の4つの評定

項目に従い、評定を求めた。評定結果は図4のとおりである。各評定項目に対する評定者の分布割合を見ると、「新しい自分になった気がした」に対しては女性47.9%、男性33.3%が「はい」と評定、「かっこよくおしゃれになっ

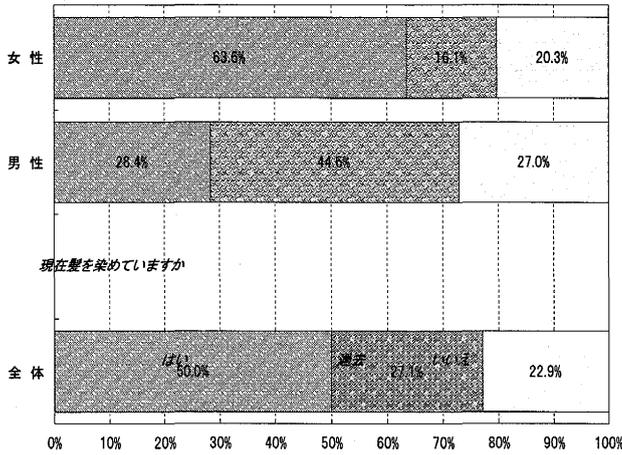


図1. ヘアカラー採用者の実態

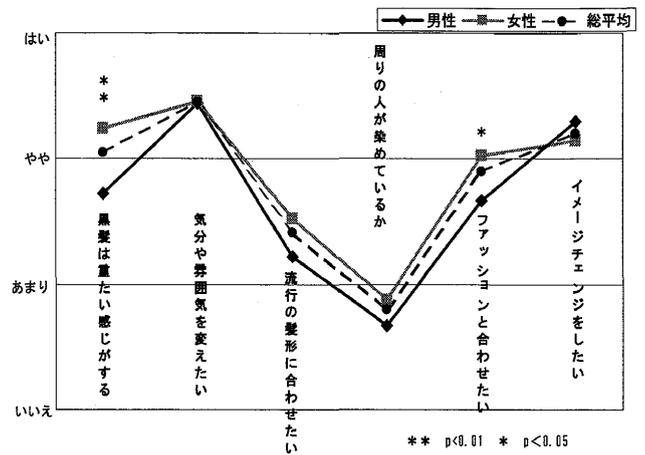


図3. ヘアカラー採用者の理由項目ごとの評定平均値

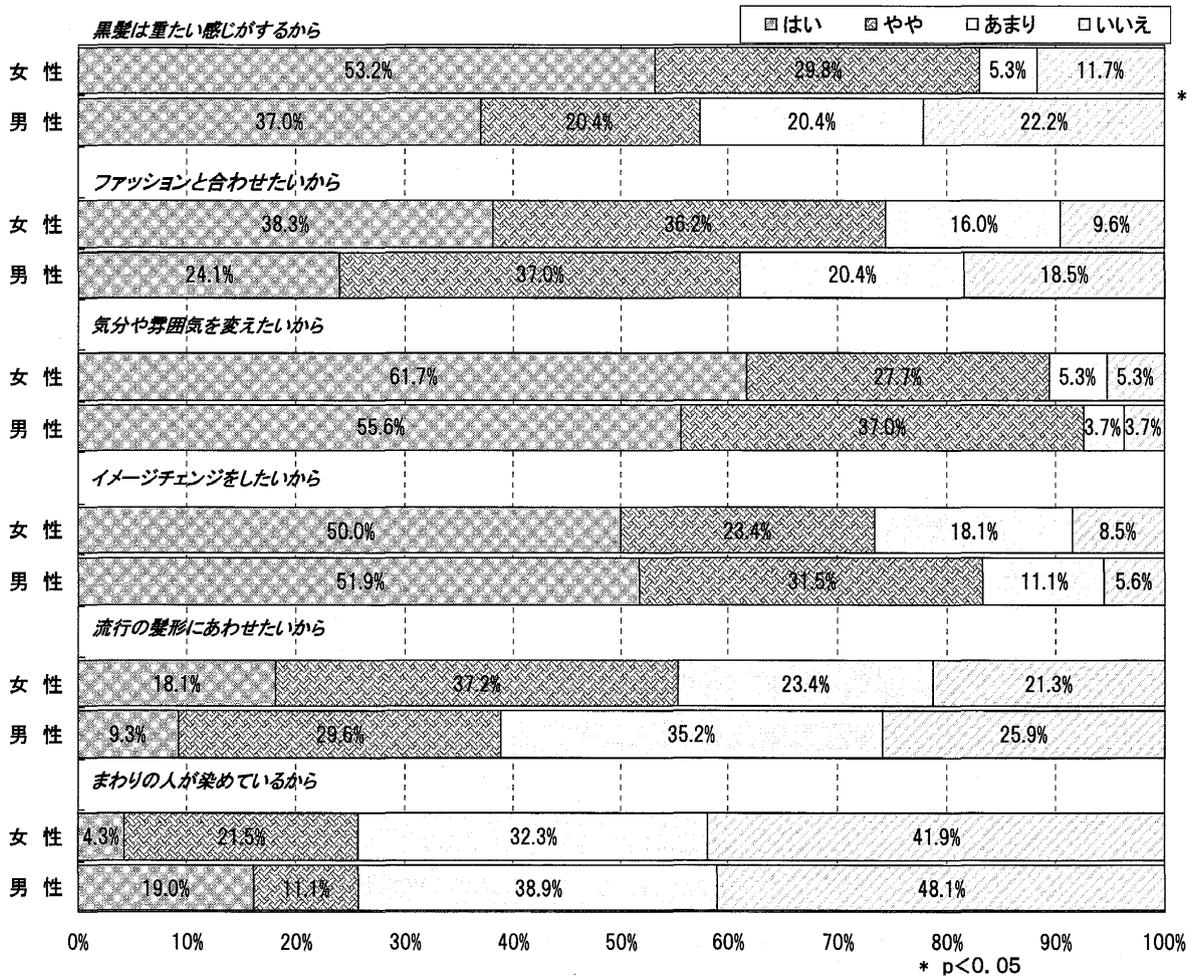


図2. ヘアカラー採用者の理由項目ごとの分布

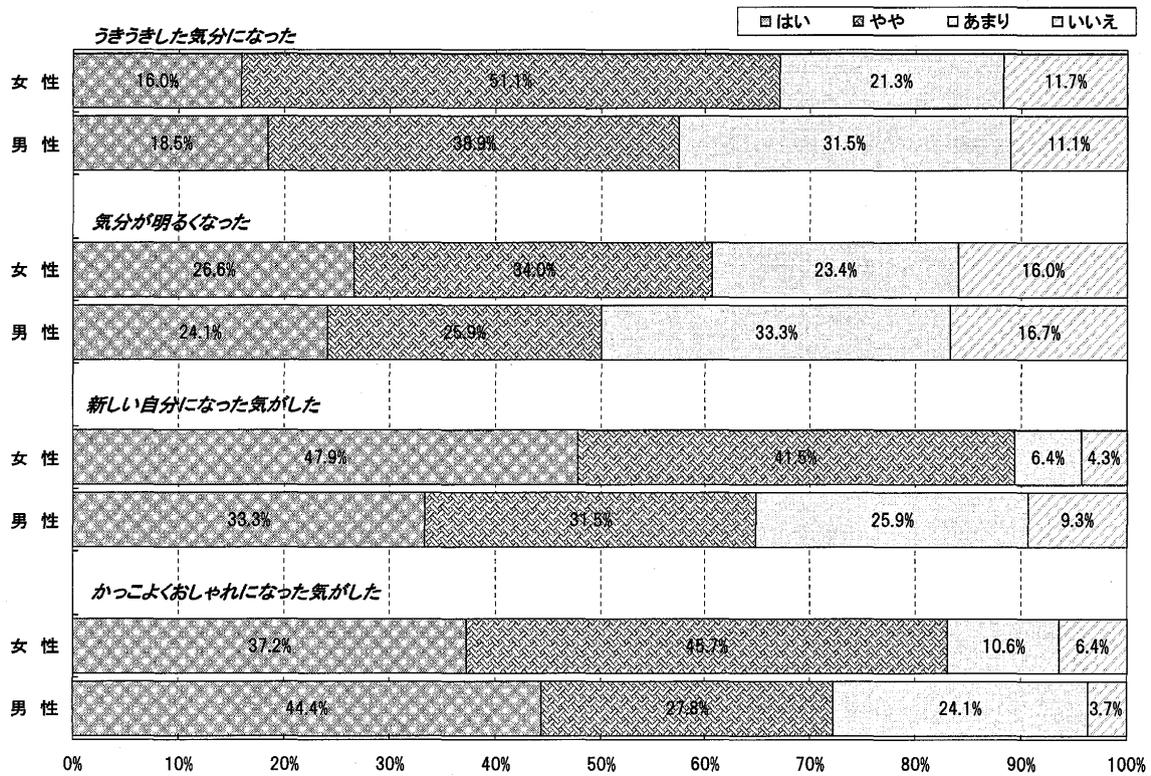


図4. ヘアカラー採用者の採用時の感想項目ごとの分布

た気がした」に対しては、女性37.2%、男性44.4%が「はい」としている。

前述のヘアカラー採用理由とあわせると、評定者の期待したよいイメージチェンジの効果が得られた体験を示すものといえよう。

なお、評定者全体の22.9%にあたるヘアカラー未経験者の髪を染めない理由は表1に示すとおりである。

表1. ヘアカラー未採用者の理由

	はい	やや	あまり	いいえ
興味がないから	11 26.2%	4 9.5%	9 21.4%	18 42.9%
面倒だから	13 31.0%	13 31.0%	3 7.1%	13 31.0%
黒髪が生えて変になるのがいやだから	10 23.8%	6 14.3%	5 11.9%	21 50.0%
自然の色がいいから	21 48.8%	5 11.6%	5 11.6%	12 27.9%
髪が痛むから	18 41.9%	9 20.9%	5 11.6%	11 25.6%
お金がかかるから	10 23.8%	7 16.7%	6 14.3%	19 45.2%

2. ピアスについて

ピアスの採用者は、図5のとおり現在過去合わせて女性49.1%、男性21.6%、評定者全体では38.5%と他の身体装飾行為に比べ少数である。フリーゲルの装飾の形態分類によれば、ピアスは、身体的永続的装飾に分類され、この伝統のなかったわが国ではまだ抵抗がある装飾ともいえよう。

38.5%にあたるピアス採用経験者を評定者とした「ピアスの採用理由」「始めて採用したときの気分」には男

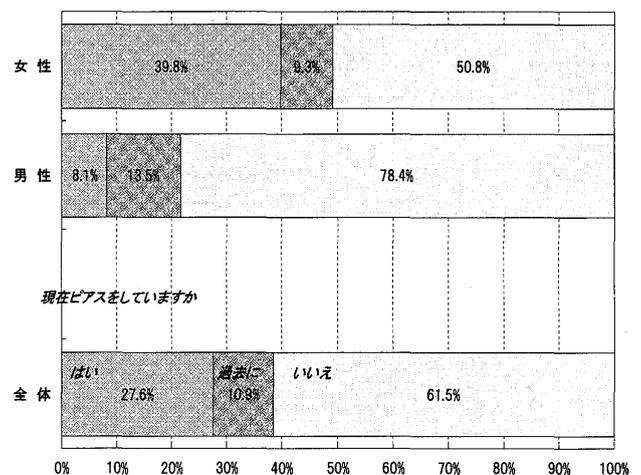


図5. ピアス採用者の実態

女の差は認められなかった。このため、ピアスの採用経験者については男女合わせてその特徴を考察する。

ピアス採用の理由については、図6に示す6つの理由項目に対する評定を求めた。各項目ごとの評定者の分布割合を示すのが図6である。

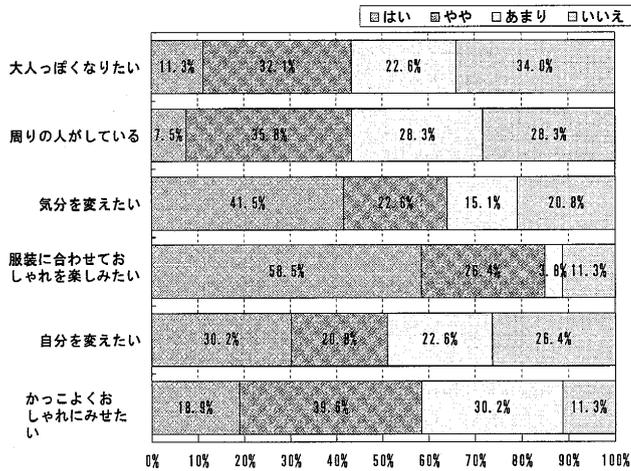


図6. ピアス採用者の理由項目ごとの分布

採用理由として「服装に合わせておしゃれを楽しみたいから」に「はい」と答えた者は全体の58.5%で、「やや」の26.4%も加えると84.9%にのぼる。「周りの人がしている」という理由は少数である。これを評定平均値で比較すると、やはり、「服装に合わせておしゃれを楽しみたい」の項目の平均値が最も高い。(図7)

また、このピアス経験者が、初めてピアスを装着した時の感想は図8のとおり「うきうきした気分」「気分が明るくなった」である。

ピアスの採用者は、より積極的におしゃれを楽しみた

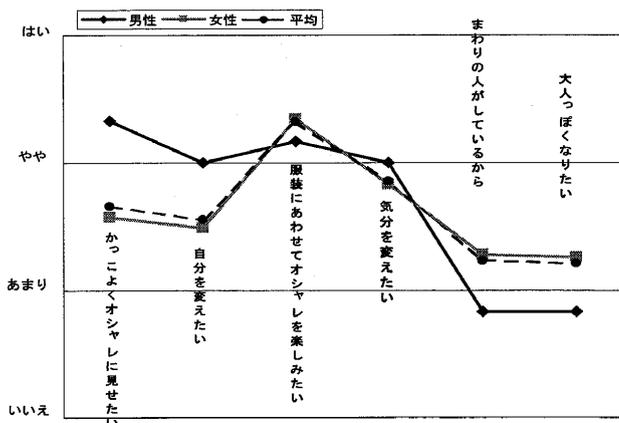


図7. ピアス採用者の理由項目ごとの評定平均値

いという理由から、これを装着し、そのことによって高揚感を味わっていることがわかる。

全体の61.5%に当たるピアスを装着したことのない評定者を対象としたピアス不採用の理由には、男女の差異が認められた。(図9) 評定者の理由項目ごとの分布状態の割合をみると、男性の理由は、「面倒だから」「興味がないから」に「はい」とした者が多く、この2つの理由は、女性に対して有意に高い分布となっている。

一方女性がピアスを採用しない理由は様々であり、過半数が「はい」と評定した項目はなかった。これを理由項目ごとの評定平均値で比較したものが、図10である。これによれば、「興味がないから」「面倒だから」の理由は、ともに男性には肯定、女性には否定され、0.1%水準の差異が認められた。「お金がかかるから」の理由は、男女ともに低い評定平均値であったが、5%水準で、女性のほうが有意に低かった。男女のファッション意識の違いが見られる結果となった。

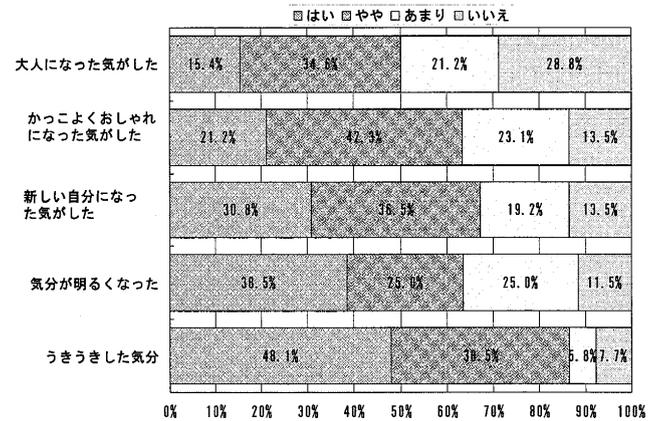


図8. ピアス採用者の採用時の感想項目ごとの評定平均値

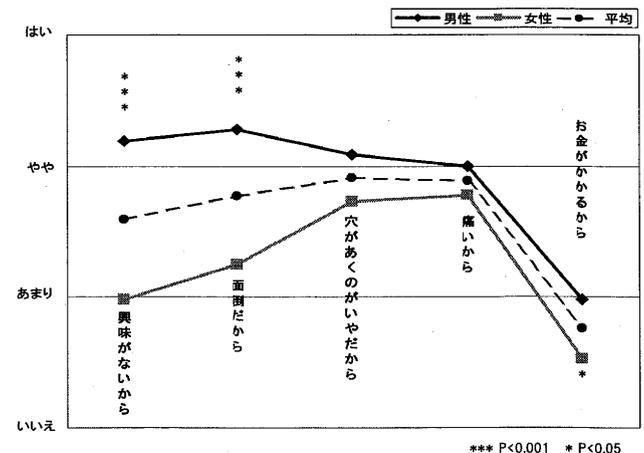


図10. ピアス未採用者の理由項目ごとの評定平均値

*** P<0.001 * P<0.05

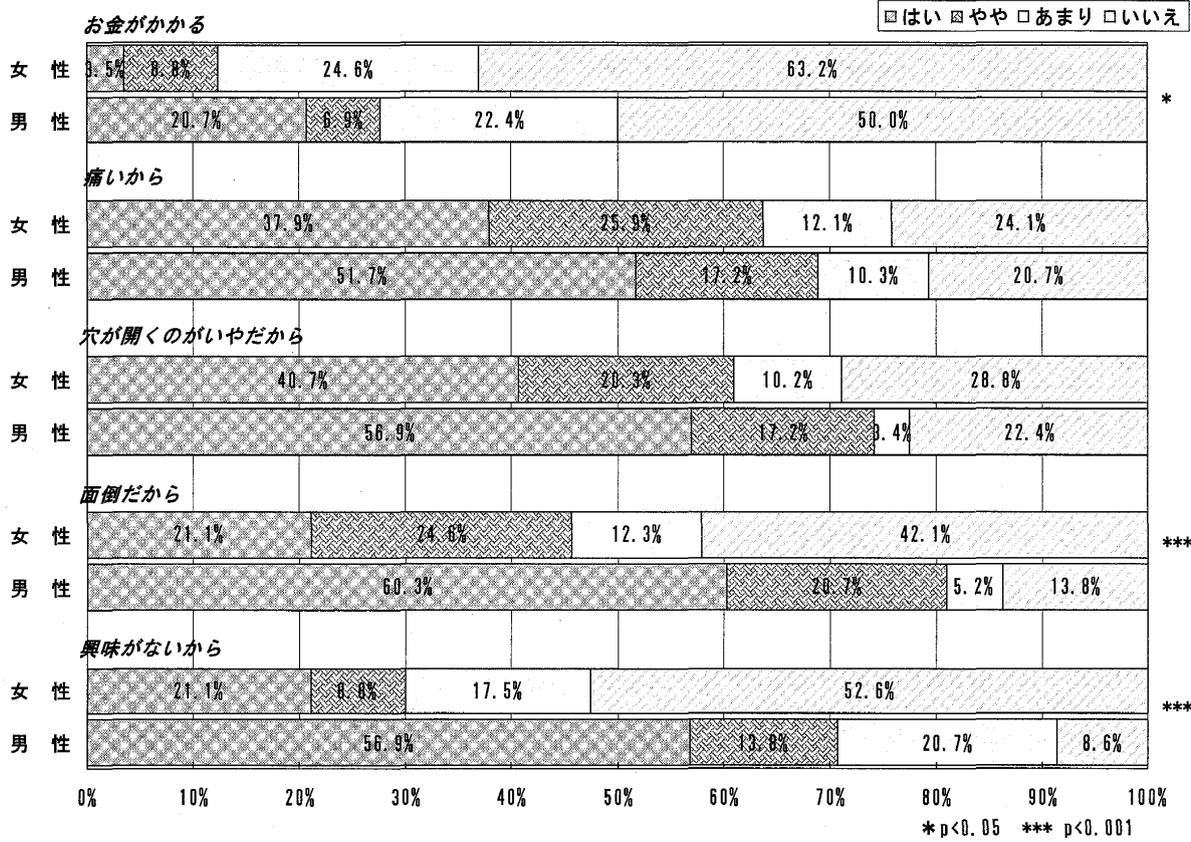


図9. ピアス未採用者の理由項目ごとの分布

3. 眉剃りについて

眉剃りなどを含む、眉を整える行為については、図11のとおり現在と過去を合わせて女性の93.2%、男性の71.7%、男女合わせた評定者全体の84.9%がこの行為を経験している。

眉を整える理由を、質問紙に提示した7項目ごとの評定者の分布からみると、図12のとおり「身だしなみ」が最も多く、この項目に対し女性の75.2%、男性の39.2%

が「はい」と評定している。

項目ごとの評定平均値でこれを比較すると図13のとおり「身だしなみだから」の次に「眉の形が気に入らないから」の理由が挙げられる。この2つの理由については、いずれも5%水準で男女の有意差がみられる。眉剃りのような眉を整える行為は、他の身体装飾行為とは異なり「身だしなみ」として、日常的なマナーの一つとして行われ、特に女性にこの傾向が強いことがわかる。

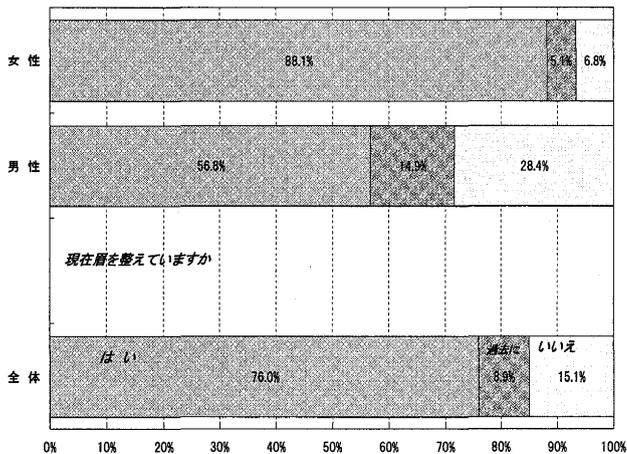


図11. 眉剃り採用者の実態

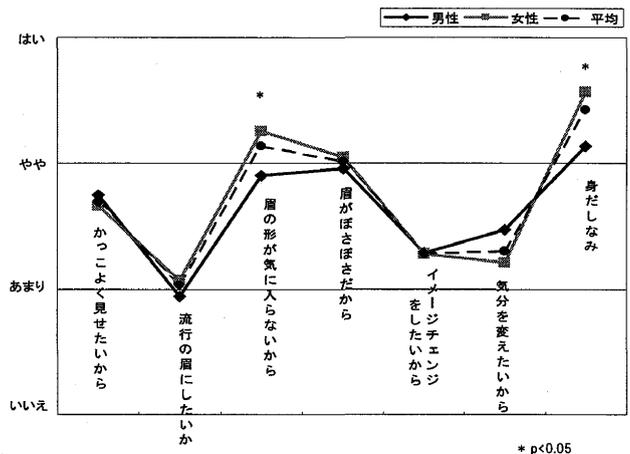


図13. 眉剃り採用者の理由項目ごとの評定平均値

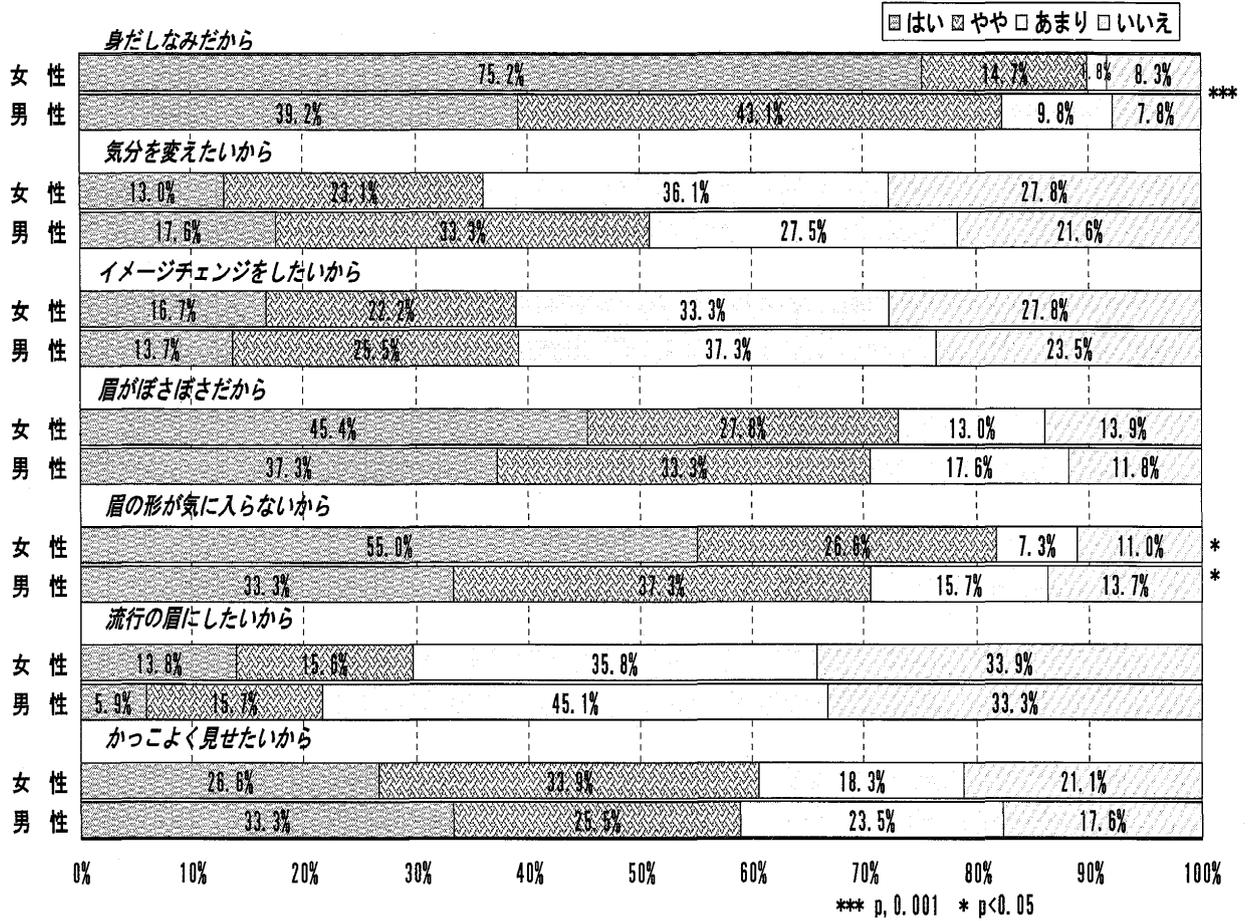


図12. 眉そり採用者の理由項目ごとの分布

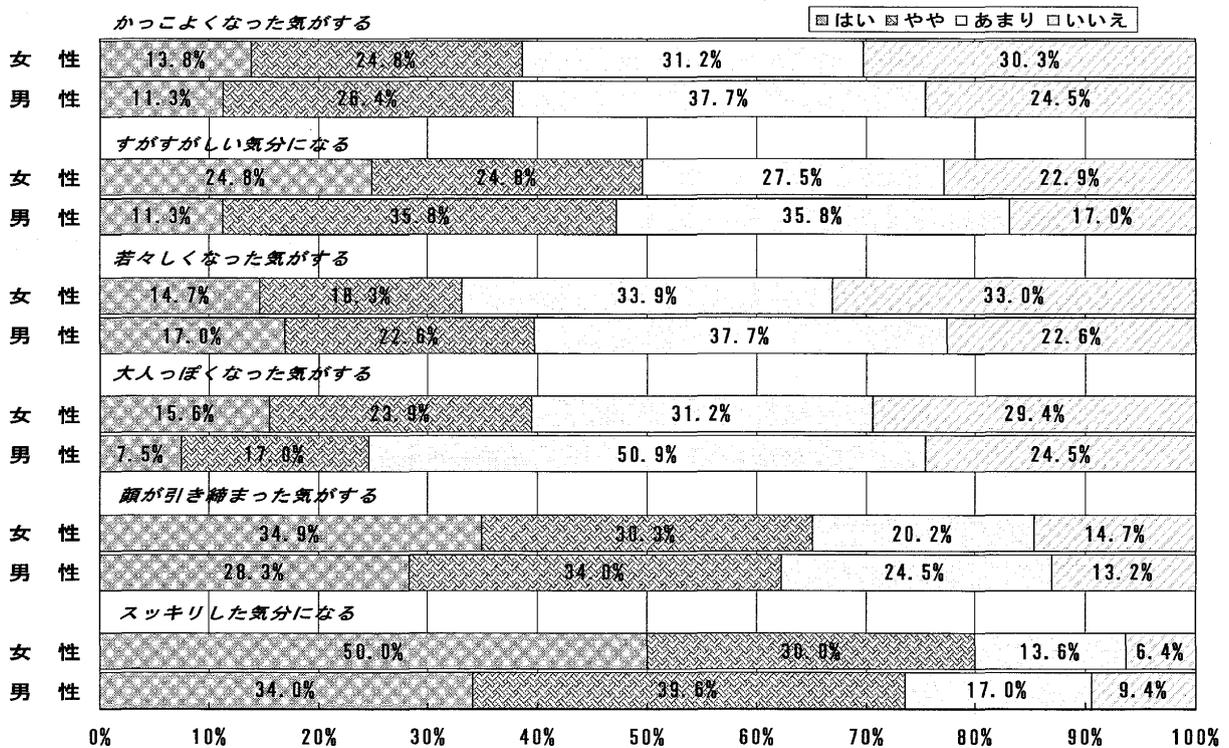


図14. 眉剃り採用者の採用時の気分項目ごとの分布

眉を整えたときの気分は、評定者の分布でみると、「スッキリした気分になる」に対して女性の50%、男性の34%が「はい」と答え、最も多い項目となっている。次に多い項目は、「顔が引き締まった気がする」である。眉剃りをする理由が「身だしなみ」だったことを考慮するとこれに対応する結果といえる。また、眉を整えたときの気分については、男女の差異が認められた項目はなかった。(図14)

なお、眉を整えたことがないとした全体の15.1%の評定者のその理由は表2のとおりである。

終わりに

表2. 眉剃り未採用者の理由

	はい	やや	あまり	いいえ
興味がないから	11 19.0%	4 9.5%	2 19.0%	4 52.4%
形がいいから	5 17.2%	7 24.1%	2 6.9%	15 51.7%
面倒だから	16 17.2%	7 24.1%	2 6.9%	4 13.8%
自然のままがいいから	9 31.0%	7 24.1%	6 20.7%	7 24.1%
きれいに それないから	6 20.7%	9 31.0%	6 20.7%	8 27.6%

最近のファッションによく見られるようになったヘアカラー(茶髪)、ピアス、眉剃りの3つの身体装飾行為の実態とファッション意識との関連を、意識調査をもとに検討した。

その結果、身体装飾行為の採用実態を表す現在と過去を合わせた採用経験者の割合は、ヘアカラーが約77%、ピアスが38.5%、眉剃りが約85%であった。

ヘアカラーの採用者については、先行研究によると1996年の三宅のデータでは、調査当時、茶髪にしているもの35.7%、以前していたもの14.7%、1999年実施の中村のデータでは、同じく43%、22%、本報の2004年のデータ50%、22.1%でありこの行為が年ごとに増加して一般的になっていることがわかる。

ヘアカラーが流行の普及段階のピークを迎え始め、この後は一般化型の流行として定着していくのではないかと推察を新たにした。

また、本研究で3つの身体装飾行為を、一度に調査対象とすることによりそれぞれの行為が被服の着用と同様

に自己表現の手段として、ヘアカラーは「変身願望」ピアスは「おしゃれを楽しむ」眉剃りは「みだしなみ」というそれぞれ異なる意味合いを持って、ファッションの中で採用されていることがわかった。

本調査の実施に対して全面的にご協力いただいた広島国際学院大学現代社会学部の田辺誠さん、評定者として質問紙調査にご協力いただきましたすべての皆様に感謝申し上げます。

付記 本報の一部は、2005年日本家政学会中国四国支部研究発表会にて口頭発表した。

参考文献

- 1) 三宅邦建, ルースソックス, 茶髪, ポケベル: 流行現象の社会心理学的研究採用者の性格, 選好, 情報収集, 社会的認知, 比較文化(1997)3, 115-128
- 2) 中村俊哉; 茶髪・ピアスと西洋化に関する文化心理学, 福岡教育大学紀要(2000)49, 229-237
- 3) 笹山郁生, 永松亜矢, 化粧行動を規定する諸要因の関連性の検討(1999)福岡教育大学紀要, 48, 241-251
- 4) 神山進, 苗村久恵, 馬杉一重(1996) 容姿の情報伝達内容に関する研究—服装スタイルについて 繊維製品消費科学37, 184-194
- 5) Horn, M.J. 1968 The second skin, Boston ;Houghton Mifflin Company
- 6) 高木修, 大坊郁夫, 神山進; 被服と化粧の社会心理学, 北大路書房(1996)
- 7) Flugel, J. C. 1930 The psychology of clothes, London;The Hogarth Press.Ltd
- 8) S.バカイザー, 高木修, 神山進監訳, 被服心理研究会訳; 被服と身体装飾の社会心理学, 北大路書房(1994)